

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

第2期飯島町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県上伊那郡飯島町

3 地域再生計画の区域

長野県上伊那郡飯島町の全域

4 地域再生計画の目標

本町の人口は、1975年に10,292人まで減少したものの、1995年の10,989人までは緩やかに増加していたが、それ以後は減少傾向が続いており、2020年には9,004人となっている。一方、世帯数は2005年に3,294世帯まで増加し、その後10年ほど横ばい状態が続き、2020年には3,391世帯に増加した。国立社会保障・人口問題研究所によると、2025年に人口は8,454人となる見込みとなっている。

年齢3区分別人口をみると、生産年齢人口（15～64歳）及び年少人口（0～14歳）が減少している（生産年齢人口：2015年5,216人、2020年4,672人。年少人口：2015年1,112人、2020年1,003人）一方で、老年人口（65歳以上）は増加している（2015年3,202人、2020年3,329人）。

また、自然動態については、1995年に、死亡者数（110人）が出生者数（98人）を上回って以降、自然減が続いている。加えて、死亡者数と出生者数の差が年々広がっていく傾向にあり、今後も自然減が続くことが予想される（2023年91人（出生数38人、死亡数129人）の自然減）。

なお、合計特殊出生率は、2018年まで増減を繰り返しながら全体として減少傾向にあったが、近年は1.08～1.58で推移している。

社会動態については、2021年までは転入者が転出者を上回り、社会増となっていた（2021年39人（転入者326人、転出者287人）の社会増）。2022年以降は社会減が続いている（2023年22人（転入者数304人、転出者数326人）の社会

減)。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、地域における担い手不足やそれに伴う地域産業の衰退、さらには地域コミュニティの衰退等、住民生活への様々な影響が懸念される。

これらの課題に対応するため、今後、飯島町では妊娠・出産・子育て支援を強化し、さらに飯島町から転出した若い世代のUターンを促すことや都市部からの転入を促す等、社会増減が均衡するような人口誘導を図る。そして、これらを含めたさまざまな地方創生の取り組みにより、少子化に歯止めをかけ、緩やかな人口減少と年齢構成のバランスを維持した持続可能な地域の実現を展望する。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標として掲げ、目標の達成を図る。

- 基本目標 1 住民と行政の創合力による安全で安心なまちづくり
- 基本目標 2 美しく快適な暮らしの環境を将来へつなぐ
- 基本目標 3 誰もが健康で居場所と出番があり共に支え合える地域づくり
- 基本目標 4 地域特性を生かした産業の創造と振興のまちづくり
- 基本目標 5 暮らしを支える強靱で快適なライフラインの創造
- 基本目標 6 魅力向上で住みたい・住み続けたい地域づくり
- 基本目標 7 「子どもの元気」と「学びの力」でいきいき豊かな暮らし
- 基本目標 8 将来像を実現する創造力にあふれた行政基盤づくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2027年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	火災等消防団出動件数	3回／年	3回以内／年	基本目標 1
ア	自然災害による死亡者数 (延数)	0人	0人	基本目標 1
イ	飯島町の再生エネルギー	23.5%	33.5%	基本目標 2

	比率			
ウ	年間出生数	38人／年	60人／年	基本目標 3
ウ	特定健診受診率（国民健康保険）	67.4%	69.5%	基本目標 3
ウ	健康寿命（平均自立期間 男性	81.5歳	82.0歳	基本目標 3
ウ	健康寿命（平均自立期間） 女性	85.6歳	85.8歳	基本目標 3
エ	地域経済循環率	68.1%	70.0%	基本目標 4
オ	町道の改良延長（幅員5.5 m～）	44.7km	47.9km	基本目標 5
オ	水道管路耐震化率	79.6%	80.0%	基本目標 5
カ	人口	8,559人	8,404人	基本目標 6
カ	人口の社会増減	－22人／年	± 0 人／年	基本目標 6
キ	学校満足度調査で「学校 が楽しい」と答えた子ども の割合	82.0%	90.0%	基本目標 7
キ	講座満足度調査で「講座 参加により心豊かになっ た」と答えた方の割合	－	80.0%	基本目標 7
ク	将来負担比率の維持	29.4%	73.0%以下	基本目標 8

5 地域再生を図るために行う事業

5－1 全体の概要

5－2 のとおり。

5－2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

第2期飯島町まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 住民と行政の創合力による安全で安心なまちづくり事業
- イ 美しく快適な暮らしの環境を将来へつなぐ事業
- ウ 誰もが健康で居場所と出番があり共に支え合える地域づくり事業
- エ 地域特性を生かした産業の創造と振興のまちづくり事業
- オ 暮らしを支える強靱で快適なライフラインの創造事業
- カ 魅力向上で住みたい・住み続けたい地域づくり事業
- キ 「子どもの元気」と「学びの力」でいきいき豊かな暮らし事業
- ク 将来像を実現する創造力にあふれた行政基盤づくり事業

② 事業の内容

ア 住民と行政の創造力による安全で安心なまちづくり事業

ふたつのアルプスに守られた豊かな自然環境の中で、将来にわたって住民みんなが安全で安心して暮らしていけるまちを目指す。

万一の災害に十分な備えを進めると共に、暮らしを支える公共交通機関の確保や役場機能の効率化を進めていく。

【具体的な事業】

- ・災害に備えた防災体制の充実
- ・先端技術を活用した未来のサービスづくり
- ・安心して暮らせる地域公共交通の確保 等

イ 美しく快適な暮らしの環境を将来へつなぐ事業

ふたつのアルプスの麓、美しい自然にはぐくまれた生活環境は住民が共有するかけがえのない財産である。この恵まれた生活環境を保全し将来の世代に引き継いでいくまちを目指す。

また、住民の生活と行政の重要な接点でもある窓口や税の業務について、接客ホスピタリティーの向上を図るとともに、公平で効率的なサービスの最適化を目指す。

【具体的な事業】

- ・低炭素・循環型のまちづくり

- ・ごみの少ない暮らしづくり
- ・接客ホスピタリティー向上 等

ウ 誰もが健康で居場所と出番があり共に支え合える地域づくり事業

生涯を通じて、心も体も健康で安心して生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護などの関係機関が密に連携し、健康増進、疾病の予防・早期発見・早期治療、福祉の充実、介護への適切な対応ができるネットワークの構築を推進する。

【具体的な事業】

- ・切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健体制
- ・「生涯健康」支援
- ・みんなが支え合う地域福祉の実現 等

エ 地域特性を生かした産業の創造と振興のまちづくり事業

ふたつのアルプスの恵みがもたらす農地や森林、水などの地域資源や、培ってきた伝統や文化を生かした、多様な産業による活力あるまちを目指す。

将来にわたって暮らしやすい町であるためには、そこに住みたいという想いだけではなく、暮らし続けるための「しごと」が必要である。地域の特性を生かしながら、新しい時代にも対応できる産業を創造していく。

【具体的な事業】

- ・将来を見据えた農地の有効利用
- ・スマート農業の推進
- ・就農希望者への積極支援 等

オ 暮らしを支える強靱で快適なライフラインの創造事業

住民の安全・安心で豊かな暮らしを支える、強靱で快適なライフラインを創造する。

道路・橋りょう、上下水道を中心とした公共インフラは暮らしの重要な要素です。リニア中央新幹線の開通や時代の変革など、将来を見据えたインフラの整備や維持管理、強靱化を進めることで暮らしやすいまちを実現する。

【具体的な事業】

- ・暮らしを支える道路の整備
- ・将来を見据えた都市づくり
- ・住宅施策と空き家対策 等

カ 魅力向上で住みたい・住み続けたい地域づくり事業

住民が自らの地域に誇りと愛着を持ち、住みたい、住み続けたいと思える魅力あるまちを目指す。

町の魅力を発掘し磨き上げる取り組みを進めることで、交流人口や関係人口、定住人口の増加を目指すとともに、将来を見据えた暮らしやすい地域づくりを住民と共に進めていく。

【具体的な事業】

- ・町の魅力を生かした観光地域づくり
- ・若者や子育て世代の人口を増やす
- ・住民参加で盛り上げるコミュニティ機能の充実 等

キ 「子どもの元気」と「学びの力」でいきいき豊かな暮らし事業

将来にわたり活力のある暮らしやすいまちのため、家庭・学校・地域・企業が一体となって子育てを支援する、安心して子どもを産み育てられるまちを目指す。

次世代を担う子どもたち1人ひとりが確かな学力と豊かな人間性、柔軟な創造性を身につけ、「生きる力」を育む学校教育を推進するとともに、誰もが生きいきと充実した人生を送ることのできる生涯学習の環境を整える。

【具体的な事業】

- ・子どもの健やかな体と豊かな心を育てる
- ・子どものための家庭環境づくりの支援
- ・芸術・文化を守りつなぐ 等

ク 将来像を実現する創造力にあふれた行政基盤づくり事業

いかなる状況においても安定した暮らしやすいまちであるために、社会の変化に対応できる、将来にわたって持続可能な行財政基盤の構築を目指す。

人口減少や少子高齢化、地方分権の進展、住民ニーズの多様化・高度化に、創造力と実行力で応えられる簡素で効率的な行政組織を構築していく。

【具体的な事業】

- ・住民ニーズに応える行政改革
- ・効果的・効率的な財政運営
- ・公共施設の適正管理・有効活用 等

※なお、詳細は飯島町デジタル田園都市国家構想総合戦略（飯島町第6次総合計画内）のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（K P I））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

300,000 千円（2025 年度～2027 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C A サイクル）

毎年度7月頃に重要業績評価指標K P Iの進捗状況を集約し、外部有識者による効果検証を行う。検証後は速やかに飯島町公式WE Bサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2025 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日まで

6 計画期間

2025 年 4 月 1 日から 2028 年 3 月 31 日まで